

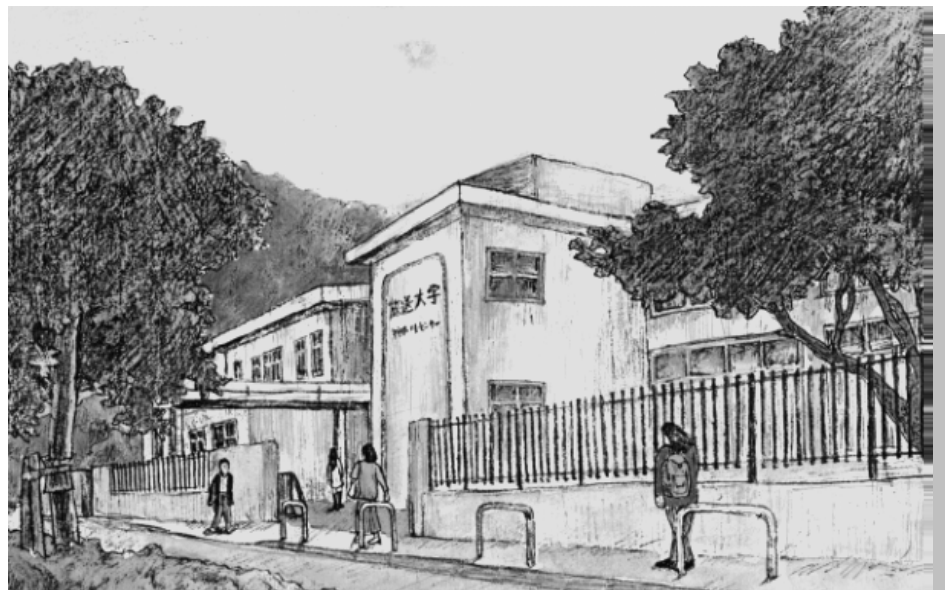
# UA 神奈川学習センター

1998年11月1日  
第1巻第3号(通巻4号)

## あき だより

### ハイライト

- 2 芸術の日常
- 3 研究ノートの余白
- 4 弘明寺商店街の紹介
- 6 旅の記憶
- 7 学生団体・サークル  
同窓会の紹介
- 8 幕末・明治写真展開催  
放送大学学生募集



放送大学神奈川学習センター  
〒232-0061 横浜市南区大岡 2-31-1  
TEL:045-710-1910  
FAX:045-710-1914

こいつは俺にそっくりだ。抜き身だ。  
こいつも俺も鞘に入ってねえ刀さ。  
でもな、あの奥方が言った通り、本当  
にいい刀は鞘に入っている。  
おい、手前達も大人しく鞘に入ってい  
ろよ。

『椿三十郎』黒澤明

# 芸術の日常

## 俳句もわが文学 =心を写す魔力= 松本 道男

しづかなる力満ちゆきばったとぶ  
加藤楸邨

私と俳句の出会いは、加藤楸邨先生が主宰誌「寒雷」に毎月発表されていた「山脈抄」の大作に接し感動したことに始まる。昭和25年のことである。以後昭和32年まで「寒雷」の会員として師のご指導を受けた。

若葉光水車きしみて水放つ 道男  
夕燕薪割る母はひざまづき 〃  
榎の木は熱あるごとく雪よせず 〃

初心者の頃の青春俳句は数百句を数える。  
x x x

大ジョッキ奢りし方が早く酔ふ  
田川飛旅子  
未知数をXと置き梅含む 〃  
春暁を覚めんとすなり仮の世に 〃

その後15年間、全く俳句とは決別していたが、昭和48年加藤楸邨先生の高弟、田川飛旅子先生が俳誌「陸」を創刊されるに際し、世界で最も短い詩型といわれる俳句を再び始めるに至った。

読者が簡単に作者となり得る俳句には、瞬間を永遠のものにする働きがあり、文明の利器“カメラ”に似た魅力をもっている。世間一般では、カメラは時流に乗ったモダンな利器で、俳句は風流を追う宗匠趣味と考えられているが、宗匠趣味とはほど遠い私の句作上の秘訣について種明かしをしてみた。

第一に、人間が生きていく上での哀歓を詠う。外へ向き勝ちの写生の眼を心の内側に向け、心の傷を抑えて詠む。

梅雨を病む  
湯上がりの子にまたがれて 道男  
走馬灯止まる人生に憤死あり 〃

第二に、言葉への新鮮な感覚を練磨する。言葉の新しい並べ方を工夫し、語彙の組み合わせの新鮮さを通して、作者が感動したワタクシの美感を読者に伝達する。

粉雪が惚れているらし喪服妻 道男  
踊太鼓叩く子足の踊りある 〃

第三に、新しい自在な配合を句の中に求める。切れ字を介して二つの別な詩因を配合（二物衝撃）し、立体的な含蓄と空白と曖昧性をもつ美しい詩を創造させる。

春雷や校正洩れの逆さ文字 道男  
亀鳴くや妻にもほのと髭ありて 〃

第四に、自分自身の発見を尊ぶ。俳句はパテントのようなもので、人の発見しなかったものを射止め、作者のワタクシを俳句の中に棲ませ、未知の自分に出会う喜びをもつ。

罌粟真赤刃物のごとく波寄する 道男  
結氷湖ひらく目鼻へ尖る風 〃  
x x x

俳句を始めてからの交遊関係の輪は更に太くなり、昭和50年代以降は肩にカメラ、ポケットに手帖を入れ、北は礼文、利尻から南は指宿、佐田岬まで、海外ではアメリカ東海岸より西海岸へ、近年は香港、桂林へも足を伸ばしている。

昭和53年に第一句集「葦三彩」を上梓してはや20年が経過、現在は「俳句写真集」の出版を計画している。

穂絮とびマラソン一人づつ戻る 道男  
秋風やざりざりと襖の湯 〃

昭和55年以降の俳句遍歴については次の機会に譲るとするが、俳句は心を写す魔力をもっているのである。

## オペラは好き？

遠藤 嗣子

「オペラは好きですか？」と尋ねると、それまでほとんどオペラやオペレッタを聴くチャンスがなかったという人々からは必ずと言っていいほど決まった答えが返ってくる。「オーケストラのコンサートへはよく出かけるけれど、オペラはあまり……。聴いてみたいと思わなくはないけれど、オペラは難しいから。」その度に、ちょっと意地悪で高慢なもう一人の私が囁く。「じゃあ、オーケストラだったら判るの？オペラの難しさって何？」その問いかけは、同時に私自身にも向けられているのである。

私もご多分に漏れず、オペラは難しいものという苦手意識が強くて、オペラ・コンサートへは出かけたことはなかった。しかし、弟がテノール歌手としてオペラの舞台に立つようになって

から、彼が出演するオペラ通いが始まったのである。

何故、私は“オペラは難しいもの・苦手なもの”と感じたのであろうか。その理由の1つは、台詞がすべて“歌”であること。慣れないせいか、台詞が“歌”というのは取って付けたようで気障に聞こえ、どうしても違和感が消えなかった。

オペラを敬遠していた最大の理由は、言語の問題である。オペラは、日本語で上演されることは少なく、ほとんどが外国語、特にドイツ語やイタリア語（字幕スーパー付きが多い）で上演されている。日本語で上演される場合であれば、ほとんど考えることなく台詞（歌）を聴くことが出来るし、ストーリーもそれなりに理解出来るであろう。しかし、“台詞”がすべて外国語の場合となると、話は別である。

私は、オペラへ出かける度に、その判らない外国語を必死に聴こうとし、字幕スーパーを見ることに熱中していた。しかし、あまりにもそれらにこだわりすぎたため、オペラが音楽であることを忘れてしまっていた。苦手意識の解消どころか、逆にますます“オペラの難しさ”が助長され、ストレスばかりが貯まっていった。好きなはずの音楽さえも楽しむ余裕はなくなっていた。オーケストラのコンサートでは、理屈抜きで演奏されている音楽に浸っていられるのに、何故、オペラとなるとあれこれ考えようとするのであろうか。

その疑問を解決するために、自分なりに発想の転換を図ることにした。“外国語を理解できない”ことを逆手に取り、外国語で歌われる“台詞”を、オーケストラのパートの一部分、つまり歌手の声そのものを1つの楽器として考え、オペラをいわゆるオーケストラのコンサートとして気楽に聴くことにしたのである。すると、歌手の歌声が他の楽器と共に違和感なく私の耳を通り抜けていくではないか。

それまで“台詞”を聴くことにこだわり、字幕スーパーに熱中していたときには感じられなかったオペラの楽しさや華やかさ、そして人間の声の美しさ、素晴らしさに改めて気付いた。何より、人間の声はまさに形のない究極の楽器であることを実感したのである。私にとっての外国語は、リズムであり心地よい音楽であることも……。

こうして、私流のオペラの楽しみ方を見つけることができたのである。あなたも、たまには自分流の楽しみ方を捜しにオペラ・コンサートへ出かけてみてはいかが？

「オペラは好きですか？」

## モンドリアンの抽象について

坂井 素思

渋谷で開かれたモンドリアン展に、この春行って来た。モンドリアンの絵には、幼いころ教科書で見てから、不思議な親しみを感じていた。この不思議な感覚が「抽象」ということから喚び起こされてくるものだと知ったのは大人になってから、それもずっとずっと後のことだった。

モンドリアンの抽象のもっともポピュラーなものは、矩形のコンポジションである。黒い枠で囲まれた矩形がいくつか組み合わされ、白抜きが多いなかに、青・黄・赤の原色が配置される。この矩形群を構成する垂直線と水平線には、分離・分断・交錯の「対立」があり、この対立を最終的に「均衡」の関係へ導くところに、モンドリアンの抽象がある。この対立から均衡へのプロセスの判った人のみが、抽象とはざっさり詰まった内容をただ簡略にするような、単なる単純化ではなく、複雑さをすべて含んだ、そのうえでの単純化であることを理解する。

カンヴァス全体には縁取りがないので、開放的である。けれども、原色の配置されたそれぞれの矩形は、黒い枠で囲い込まれている。全体の開放的な「広がり」と、自由を制限された矩形の黒く重い「限定」とが、緊張感のある均衡の関係をつくり出している。抽象とは、モンドリアンの簡素な絵から受けるような単純な印象とは全く逆で、このような複雑な過程から生まれるものなのである。

モンドリアンの抽象は、いつ、どのようにして始まったのだろうか。今回の展覧会で、一組の絵に出会った。「灰色の樹」と「りんごの樹」である。樹をめぐる連作のなかで、1912年ごろ制作されている。ほぼ一時間、これらの前に立ち尽くし見入った。縦に通る幹をあらゆる垂直線と、横に走る枝を描いた水平線の組み合わせという描き方は、双方の絵に共通している。でも、あきらかに「灰色の樹」には、自然そのままが具象的に残っている。これに対して、「りんごの樹」では、ひとつの抽象が成立している。縦・横・斜めに曲がりくねったアトランダムな自然の線が、山なりのなだらかな曲線の反復にパターン化され、現実の平板な複雑さから、すでにのちのモンドリアンの抽象を予想させるような、とびっきりの「抽象的に現実的な」真実が抽象されている。

でも、ここには議論の決定的な分かれ目がある。モンドリアンの抽象は、

ほかの抽象方法と比べると、かなり異質だ。同時代におなじく抽象画を始めたカンディンスキーの抽象と対照させるとよくわかる。カンディンスキーの抽象が始まる1908年ごろの絵を、ミュンヘンのレーンパッハ美術館で見たことがある。抽象の内容が重要だ、という強い主張が見える。すばっと言ってしまうと誤解されるかもしれないが、カンディンスキーの抽象とは、全体からひとつの内容を引き出し、分化・分離させるもので、ふつう抽象といえはこの意味が強い。分離されたものの対立を浮き彫りにするのが彼の抽象の本質だ。たとえば、色彩を持ったひとつの形態が、カンヴァスに描かれている。それは村の建物や人物であったりするのだが、その形態は外見との関係を急速に失くしてしまい、その代わりにその外に表現されたものの内容が強調されはじめる。「どんな形態にも内面的な内容がある」という「内的必然性の原理」が説かれ、内から外への抽象が強調されることになる。カンディンスキーの抽象には、切り離された本質だけが、どこか外へ飛んで行ってしまいうアヴァンギャルド的危険がある。

これに対して、モンドリアンの抽象の方法は、わたしたちに不思議な安定を与える。そのため、わたしたちの社会生活と無縁のものではない。たとえ

ば、初対面の人に行う「自己紹介」には、この抽象があらわれる。自分を紹介するとき、自分のみにわかっただけでは仕方がない。ここで自分以外の人にもわかる抽象が必要になってくる。いつもしゃべってしまってから、なにか違うなあ、という感じをぬぐいきれなくて、自己紹介を終える。そこでは自分のことばが自分に対立してくる。この対立をうまく解決すると自己紹介は成功する。この繰り返し当たり前なのが、自己紹介の宿命である。自分を離れないと自分をことばで表現することはできないし、でも自分から完全に離れてしまうと、自分の紹介ではなくなってしまう。つかず離れずに抽象することが、ここでは必要なのである。モンドリアンの抽象は、このような現実の、二つの葛藤のなかに生まれる抽象といえる。

カンディンスキーの抽象が分離による対立を強調するのに対して、モンドリアンの抽象はその対立を統合にまで導こうとする。この意味からすれば、超現実派のダリが、モンドリアンは「保守」的だと言ったことも、あながち故無きことではない、とようやく最近になって、わたしは思うようになってきた。(インターネット版では、モンドリアンの絵も見ることができます。)

## 研究ノートの余白

## 書上家文書について

小林 公子

「書上(かきあげ)家文書」は桐生における絹買次商として江戸時代から近代に至るまで活躍した家に残されていた文書である。1979年に書上家から桐生市に寄贈され、現在は桐生市立図書館で保管されている。

桐生は江戸中期以降、西陣から種々の織物の技術を伝播され、独自の技術を加えて、「関東の西陣」と呼ばれ、高級絹織物産地として発展を遂げた。それら絹織物の流通の中心的存在として活躍したのが絹買次商である。絹買次商は私的な仲間を結成し、絹市を取り仕切り、売買には必ず買次商を通すなどを取り決め、絹織物の流通を一手に握ると同時に、織屋以下の織物関係の従事者をも支配下におき桐生絹織物の生産・流通面を握っていたのである。

書上家は江戸時代には二期に渡って桐生新町の名主を務め、明治2年の桐生新町石高表によれば桐生新町最大の石高所持者(地主)として存在していた家柄である。絹の買次商としては貞亨元年(1684年)の同家と江戸問屋との仕切書の断簡があり、十七世紀後半には既に絹の売買を行っており、桐生絹買次仲間の中核的な存在であった。

「書上家文書」は、江戸期から明治・大正・昭和に渡り、支配(江戸)、町村(明治以降)、仲間(江戸)、組合(明治以降)、私経営(江戸)、私経営(明治以降)の六項目に分類整理され、目録の登録番号だけでも三千件以上に及び、複数の文書や部厚な文書も存在し、膨大な文書といえる。これらの文書を十二代の当主の書上文左衛門氏が分類・整理・補修等をなされ、文書の表紙に重要・役用等の文字が記された貼紙が見られるのも同氏によるものとされている。

仲間の項では、江戸中期以降の絹の取引を中心とする数々の文書が存在し、運上金中止の請願文書や江戸呉服問屋仲間などとの往復文書によって、当時の桐生絹織物の生産や流通の状況を知りうるし、私経営の項では、書上家の経営状況や取引状況を示す文書が存在し、それらを読むことによって、書上家や絹買次のみでなく、桐生領全般に及ぶ情勢も察知されるような文書が含まれ、江戸中期以降の桐生地方の情報を提供する貴重な文書であるといえる。

弘明寺商店街とその  
周辺(イラスト)

**A** アカシャ文具店

時々立ち寄っては買ってしまいう暗記ペン。学習用具3点セットの一つとして常に持っています。それにシャープペンの替え芯もここで買っています。

放送大学の通信指導や単位認定の解答記入の際、必ず「HB」を使用する事となっています。当初、替え芯「HB」を用いてすませていました。或日、鉛筆の字とシャープペンの字の濃さを比較してみました。明らかに違うのです。「HB」が何故こんなに違うのか、表示に偽りありと店の主人に申し出ました。主人言わく「替え芯は、鉛筆より1ランク淡くなるのです。硬めに作られており、従ってあなたが求められるのは、「B」でなければなりません。シャープペンのBが鉛筆のHBになるのです。」

迂闊だった自分を恥ながら、ストックの持ち合わせが3ケースある旨を述べましたところ、Bに交換して下さるといことになりました。以後、HBは用無し。因みに店の主人は、元三菱鉛筆の社員でおられた由、とんだ勘違いでありましたが、買い物をして教えられました。

さて、皆さんはご存知だったでしょうか。(皆川)

**B** ベーカーリー・デューク

店のドアを開けた途端、パンのいい匂いが飛び出してくる。20種類以上は有りそうなパンやケーキが並んだ様子に、何を買おうかと思わず迷ってしまいそう。特にお勧めは、『弘明寺あんぱん(120円)』。はみ出しそうに、たっぷり入った餡が嬉しい。また、リンゴ好きの方には見逃せない『ポムム(180円)』。リンゴ半分がそのまま入ったデニッシュ。ジューシーな酸味とカスタードクリームの甘みが絶妙のハーモニー。昭和7年に「木村屋」として創業を開始。美味しいパンの老舗である。(遠藤)

**Ge** 玄や

合掌造り風の店構えと入口のいけすが目印の酒処。中の雰囲気も、店構えにマッチした落ち着いた民芸調で統一されている。1階はテーブルが50席、座敷が20席程度と広く、大人数のグループでも利用できる。2階は座敷になっており40名程度の宴会が可能。もちろん、カラオケも完備している。季節の料理やオリジナル料理を含め、メニューの種類はかなり多く、どれも美味しい味を出しており、値段も安い。神奈川学習センターの帰りにちょっと寄ったり、サークルの集まりなどでの利用に、安心してお勧めできる店である。電話は 045-716-1810。(加藤)

**Gu** 弘明寺

弘明寺商店街を挟んで、東には放送大学神奈川学習センターを中心とした文教街、西には平安初期の創建といわれる横浜市内最古の寺、弘明寺観音がある。この弘明寺観音の開祖は弘法大師で、坂東観音 33ヶ所第14番目の札所でもある。本尊は行基作の十一面観世音立像で、国の重要文化財に指定されている。重厚な仁王門に立つ仁王尊二体は運慶の作である。

「瑞應山」と書かれた仁王門をくぐると線香が立ち上り、おびたしいダルマが整然と並んでいる。一寸不思議なムードに酔いながら、48段の石段の上ったところに観音堂があり、拝殿の左側には平成9年3月に社団法人横浜国際観光協会が設置した金色のプレートが輝き、この寺の由来を記している。境内には楓閣門(山門)、竹の観音、鐘楼、七つ石などの見所がある。

数年前、弘法大師が彫ったといわれている秘仏歓喜聖天を拝観したことがある。聖天様は男女二体が相抱き、男体は聖天のご本体、女体は観音様が聖天の女身に変化され、男性の力と女性の愛と和合された姿を表しているもので、頭部は象の顔形をしている。お供物の真っ白い二股大根は大変印象的であった。奥の院歓喜堂には珍しいものがたくさん陳列されている。密教の歓喜聖天の信仰理解にはぜひ一度参拝されることをお勧めする。

但し、拝観には1席5名で予約が必要である。(松本)

**I** 遺跡:三殿台

三殿台遺跡は東京湾に面し東西に連なる標高約50mの丘陵の一つで、約1万平方メートルの独立丘ともいえる小高い平坦な部分に位置し、学習センターからは東南東、直線距離で約500m、徒歩で10分位だろうか。(地下鉄弘明寺駅出口階段下に掲示がある。)

遺跡は縄文・弥生・古墳の三時代に亘る集落跡で、250戸を越える竪穴住居跡や、膨大な出土遺物があり、各時代の復元住居模型と共に展示保存されている。

過日紹介文を書くために現地を訪ねた。蝉時雨とトンボの群に迎えられ、昔の小学生時代の夏休みを思い出すと共に縄文、弥生から古墳時代にかけてこの地に暮らしていた人達の生活に思いを馳せ、歴史ロマンに浸ることが出来た。(吉田)

**K** 健康プラザと、大岡はらっぱ

「最近の子供達は外で遊ばなくなった」などよく言われていますが、この近所の子供達は違うようです。神奈川学習センター向かいの『大岡はらっぱ』で連日、野球などをして跳ね回っています。

最近の大人たちはどうでしょう、体を動かす機会がめっきり少なくなったのではないですか。

気になっている方は大岡はらっぱのすぐとなりに『南スポーツセンター』があるので、そちらで体を動かしてみてもいい。(杉浦)

**O** 大岡川堤の桜

大岡川は横浜市内の最高峰円海山を源流とし磯子区、港南区、南区、中区を縦断して桜木町付近で横浜港に注ぐ全長僅か15キロの小河川だが、沿線の桜並木は見事だ。

特に、弘明寺付近の大岡川プロムナードには、川沿いに整備された桜並木があり、四季折々の風情を感じ取ることが出来る。お花見に、又は散策にご利用されては如何だろうか。

また、京浜急行が南太田、黄金町、日の出町にかけて大岡川沿いに走っており、車窓からも花見を楽しむことが出来る。(吉田)

**P** Parlor Meiji

商店街入口に近い"Parlor Meiji"には、サークル活動の帰りに時々立ち寄っています。明るいアットホームな感じのパーラーでお喋りに華を咲かせます。丸テーブルやソファ、カウンターなどがこのイラストのように並んでいます。コーヒー or 紅茶付のナポリタンやピラフ、サンドイッチなど、値段もお手頃です。(星)

**S** サンエイコーヒー(ミナミステーション)

自分の好きなコーヒー豆はなにか、知っていますか。もちろん、これに答えることが出来ても、けっして偉いというわけではありません。自分のテイストを知ること、あくまで道楽の問題であります。

けれど、もし自分に合ったコーヒー豆をこれから見つけたいと思っている人がいましたら、弘明寺の鎌倉街道沿い(地下鉄の駅から上大岡方向へ向かって2~300mの右側)の店「サンエイコーヒー・ミナミステーション」を訪れることをおすすめします。ジャマイカ、マンデリン、モカ、コロンビア、ブラジル、ガテマラなど約40種類の生豆がそろっていて、その場で深煎、浅煎、どのようにでも、好みに応じて煎ってくれます。少しずつ比較してみれば、自分の好みが見つかってくるでしょう。

生豆はグリーンピースのように、ほんとうに緑色なのです。ローストには、20分ほどかかりますが、急いでいる人は前もって連絡しておけばよろしいし、またお得意な焼き豆も売っています。電話は、045-716-3200です。(坂井)

# 旅の記憶

## 水の教会

茅 すま子

私は北海道小樽市で生まれ、滝川で育った。しかし、結婚をして北海道を離れたので、あまり道内を旅行したこともなかった。ここ数年、北海道に別荘を持つ従妹夫婦と一緒に思い出の地を次々と訪れる Sentimental journey を楽しんでる。

かねてより尊敬していた建築家・安藤忠雄氏が、三つの教会建築によって、アルヴァ・アアルト賞を受賞されたので、今回はその「水の教会」を是非訪ねたいと思っていた。

しかし、憧れの「水の教会」が北海道のどこにあるのかは知らなかった。放送大学の友人のお陰で、北海道のほぼ中央、雄大な日高山脈の懐にあるトマムというところにあると解り、私の夢は実現可能となった。そして昨年、8月の終わりにその「水の教会」へ出かけることになった。従妹夫婦らと共に午前10時に千歳を発ち、トマムへは昼過ぎに着いた。暑いので、ホテル「アルファ・トマム」の玄関に入ってすぐのレストランに入った。窓の外は広い芝生の丘で、その下に「水の教会」(コンクリートの四角い箱のような)の屋根と教会の後部を見下ろすことができる。軽食をとっていると、教会の後部から結婚式を終えたいカップルが出てきて、芝生の中の小径をゆっくり上がってくる。小径の途中では親族らしい人達が、カップルに振りかけるための花びらを籠の中から貰って、アーチを作って待っている。小径の脇の木々はそよぎ、花嫁のヴェールが風になびいている。私たちは食事もそこそこに、その小径へ急いだ。しかし、教会の後部の鉄のドアは牢の扉の如く閉ざされていて、押してみたがびくともしなかった。この「水の教会」の見学時間は夕方5時からであった。

私たちは教会の前面に回った。小さな四角い会堂の前面はすべてガラス張りなので中はよく見える。中には、小花を飾ったベンチが二列ほどあるだけ。聖像もみえず、オルガンもみえない。小鳥がさえずり、風が渡り、さざ波立つ池には大きな十字架が静かに立っている。教会や池を芝生が囲み、その回りは白樺や松の深い原生林である。その果てには日高山脈が連なっている。草原に寝ころんで雲の流れる様を見続けた。人影もなく物音もない静けさの

中で、話もせず、教会とそれを巡る雰囲気長く浸っていた。

昔の北海道そのままの自然の中に、白いコンクリートが打ち放しの四角い教会と人工の池が溶け合って存在している不思議さ。安藤氏が意図した「自然との一体感」とは是なのか? 「水の教会」の、いろいろな季節の姿が想像されてくる。早春のさみどりの頃、紅葉の秋、どの季節にもこの教会の白さと、澄んだ水を湛えた池のたたずまいは、さぞ美しく自然との一体感を深く感じさせてくれることであろう。様々な思いを巡らせながら、私たちはそこで長い時を過ごした。

## 三内丸山遺跡を訪ねて

皆川 昭三

かねてより関心を抱いていた古代遺跡に、図らずも訪れる機会を得ました。というより、実は青森ねぶた祭りへ向かう道すがら、そう遠くないと聞き、乗務員にお願いしてバスを回して、立ち寄ることにしたのです。

三内丸山遺跡は、縄文時代前期から中期の巨大集落跡です。600棟の竪穴住居跡をはじめ、10数棟の大型竪穴住居跡、100棟を超える掘立柱建物跡、実に多くの穴が見つけれられた処です。何れも土が崩れぬようにプラスチックの粘液で表面がコーティングされ保全されています。巡路にあたる処には、屋根が架けられ、柵も設けられ管理されています。穴は直径1m位ですから、原木そのままの柱が立っていたのでしょうか。そして、穴から掘り上げられた土が生活廃棄物と共に盛り上げられて、約千年の間に小山のようになったと見えます。道の両側が高い壁となり、その土塁は南盛土と北盛土とよばれ残されています。勿論、この中に大量の土器、石器、土偶、それに他地域から持ち込まれたヒスイ、コハクの飾り物も混じっています。壁面から覗くカケラから古代人の生活が浮かび上がってきます。また、周りの林や谷(泥炭層)には、多量の遺物が埋蔵されたままですが、発掘のコストや管理を考えて、現在のところは手が着けられていないようです。

約880基の子供の遺体を入れたといわれる土器(お棺)が住居の近くから発掘されたり、埋葬時の習慣にかかわる石器、飾りも見つけられている由、5500~4000年前の集団生活がここにあった事を想像できる此のロマン、まさにタイムカプセルに入り込んだようです。更に、約200基の大人の墓が規則的に列をなして、当時の人の心使いも偲べれます。食生活に

関わる木の実、動物、魚の骨、植物の種子を見ると、環境を知ることができます。

ひろーいひろい、この三内丸山は、千葉のマザー牧場をちょっと大きくした感じで遮るものもありません。周辺の森に囲まれた、素適な場所です。その中で、一際目立つ大型掘立柱建物(写真のとおり、柱を組合せただけのもの)にはびっくり、高さ4階ビルに匹敵するこの代物、一体何なのか、祭事場か、はたまた物見やぐらか、ランドマーク(境界標)なのか諸説があるようです。

青森県内には、規模はわかりませんが、他に八戸市、三沢市、下田町、そして六ヶ所村などにも、遺跡が散在しているとのこと。とにかく縄文ワールド「三内丸山」を体感することができ、至極満悦の私です。たまたま訪れたこの日は、ねぶたまつりの特別サービスで入場無料、しかも、ボランティアガイド付きでしたから、幸運の上なし、いい思い出の夏休みとなりました。

## 韓国の思い出

井澤 純子

横浜国立大学大学院修士課程の同窓生で、韓国からの留学生の友人の帰郷に同行して、3月下旬に韓国旅行をした。この旅行は、その友人が格安の航空券を調達してくれ、その上、彼女の住まいを主な宿泊先として提供して貰えたことにより実現したものである。以前、私は青春の思い出としてヨーロッパやハワイには行ったことがあるものの、アジアは、今回の韓国が初めてであった。

彼女の郷里であるポアンという港町に行くために、金浦空港に降り立った。韓国でも結婚シーズンなのか、髪を美しく整えた花嫁達が皆、色とりどりのカゴを手にして幸せそうに新郎に寄り添う姿は、ひと頃の日本で流行した、定番の花嫁新婚旅行スタイル(花束を手にし、帽子、スーツ姿)を思い起こさせた。

彼女の住まいは、日本の公園のような間取りで、オンドルが付いていた。到着した日の夕食は、彼女の兄夫婦にご馳走になった。サンゲッタンという鳥を丸ごと煮込んだものであった。食事の度にキムチは常備食のように出された。韓国は特に交通費が安い。又、超近代的な大学の食堂で食べた石焼ピビンバは300円と、安くて美味しかった。舶来品以外は安いと感じた。町中に路上市場があり、衣類から食品品まで何でもあり!という感じが、又、地

下鉄駅構内には屋台が並んでいるのも、面白くて懐かしい光景であった。

キムチが象徴する韓国の国民性とはどのようなものであろうか。以前から感じていた彼女への親近感、彼女の持つ、現代の日本人が失いかけている土着への愛惜からだったのだろうか。当然のように、周囲の人々は韓国語を話し、目にする文字はハングル文字ばかりである。愛嬌のある彼女の日本語の裏には、韓国人としてのアイデンティティがあったことを、改めて突きつけられた思いであった。そして、彼女からハングル文字を習おうとしなかった自分に少なからずショックを受けた。進歩の方向性をアジアではなく、西欧に多くのひな形を見てきた。私たち日本人が置き忘れてきたものの大切さに気付くのに多くの時間をかけたように、前だけを見ていたいという彼女の姿勢に、我が身を見ているようで胸が痛む。

湖の桜が満開で、雨にけぶる景色が美しかった慶州や大都市ソウルに別れを告げ、帰途についた。ダブルブッキングで嬉しいビジネスクラスへの変更があった。乗り合わせた韓国のビジネスマンの方が、東洋人としてのアイデンティティを今後とも大切にしていきたいと話していたのが印象に残った。色々な思いを抱かせてくれた韓国の旅は、懐かしい思い出となった。そして、彼女の亡き母親の墓参りに同行させて貰ったことも……。

## 英国の記憶 (その2)

山田 海

日本に帰ってから解かってきたことだが、僕が英国のブライトンでお世話になった家庭は、いわゆる労働者階級であった。英国では、階級の区別が日本より顕著で、慣れた人なら話し方で大体わかる。

その階級間の違いは経済的なものに止まらず、文化的な断絶とも言えるものがある。先にあげた言語を始め、講読新聞、支持政党、趣味、居住地域、進学率、興味関心、価値観に至るまで見ることができる。

ここで、すこし価値観について考えてみたい。先日、NHKのBSで放送された英国のフライフィッシング紹介の番組をご覧になった方もいらっしゃるかもしれないが、そこでは上流階級の趣味としての釣りが、どのようなものであるか、分かり易く紹介されていた。そのなかで、釣りの究極の目的は釣ることではない、という言葉が使われていた。このことから分かるように、金に余裕がある上流階級にとっては、つい最近まで、労働とは卑しいものであり、釣りや狩り、芸術やスポー

ツ、サロンのような社交や、それに加えて教養としての政治学や哲学こそ、上流階級には相応しいものであるという考えがあった。

しかし、先述のテレビ番組を見ると、このような究極の釣りを楽しむためのシステムとして、川のオーナー制が維持されており、このシステムには自然環境の保存という意味のあったことがわかる。ここで見るこのことのできるのは、金に換算されにくい価値、つまり近代という時代が無視してきた価値に対する上流階級特有の敏感さであり、価値観の多様性に対する上流階級の貢献である。この点で日本という国をみると、金の価値を越えるような、近代を越えるような価値観を生み出す層がなく、結局のところ社会的視点を提供する層の薄さを痛感する。

それでは、日本はどのようにして近代の、このような矛盾を克服することができるのかを考えると、すこし話は飛ぶが、禅の思想というものが、ヒントになる気がする。英国社会では、物質的富が飽和状態になり、その結果このような物質的な価値や金に換算する価値からの乖離が進んだ。他方日本社会では、禅を通して、物を所有することへの疑いをもつ価値観がかつてあり、無我を求める禅、簡略な動きを追求する能、茶の侘寂、生け花の思想などが考えられてきたのではないだろうか。このような考え方は、大量生産・消費の限界の見えてきた現在、観念的な清貧質素に拠るのではなく、その思想を越える普遍性を秘めているのではないだろうか。

## 学生団体・サークル 同窓会の紹介

### 放大きながわレクサークル

当サークルは、平成9年9月に発足した、まだ新しいサークルです。レクは、レクリエーションの略です。

「レクリエーション」という語を広辞苑で引いてみますと、「recreation (回復) 仕事や勉強の余暇を利用してスポーツ、芸術などに親しみ、精神的、肉体的に新しい力を、盛り返すこと、またそのための休養、娯楽」と書かれています。“疲れをとるための楽しみ”と受け止めることができます。放送大学の学生は、仕事をしながら勉強をしている人が多いと、思います。ストレスも溜まります。楽しい音楽にのってダンスをしたり、ニュースポーツ

やキャンプ、ネイチャゲーム、ウォークラリー、などでいい汗をかけば、ストレスは解消します。

心身の疲れがとれ、明日への活力がうまれます。明日への意欲こそが大切なのです。毎日をイキイキと過ごすためにもストレスは溜めないことです。私たちの活動内容は……

レクダンス、フォークダンス  
毎月3回練習(第2、3、4火曜日  
13時~15時迄、第四講義室)  
ターゲット・バードゴルフ  
神奈川県TBG協会、神奈川県教育委員会、神奈川県レクリエーション協会、主催の競技大会へ参加。  
キャンプ、ネイチャゲーム、  
オリエンテーリング大会、神奈川県、横浜市、主催へ参加  
私たちのサークルは、放大的仲間と楽しみながら、体育実技の単位を取る事も目的にしています。  
私たちと一緒にレクリエーション活動をしませんか。仲間を募っています。  
連絡先 中嶋博子 (0467-83-8203)  
大関春江 (045-413-2220)

### 放送大学テニスクラブ : TOGETHER

TOGETHERは神奈川学習センターに所属する学生を中心にしたサークルです。活動の中心はテニスです。現在、部員は30名位。大学構内横のテニスコートでボールを追いかけ食らい付きつつ、奇声(?)すら発している姿を見かけることでしょう。「大学に来るといつもテニスをしている人達がいる……」そう思われるほどテニスの好きな人達の集まりです。わたしたち同様、テニスの好きな方の参加はもちろんのこと、これからテニスを始めよう、と考えている方の参加もお待ちしております。

主な活動内容

1. 大学のコートでの練習  
現在、土・日を含め週4日ぐらい実施しています。
2. 横浜国立大学附属中学校等のテニスコートでの練習会  
毎月一回、日曜日に横浜国立大学附属中学校等のテニスコートを借用し、練習会を実施しています。
3. テニス合宿  
秋9月か10月に2泊3日で行う予定です。
4. 有志による合宿  
部としての合宿の他に有志がプライベートに合宿をすることがあります。  
以上のような活動を行っておりますが、より充実した部にするため上記以外の活動や考慮中のものもあります。  
入部を希望される方は下記連絡先まで。

1998年11月1日

連絡先 片野克巳 (045-825-3566)  
三村 登 (045-741-4029)

### “うえるかむ” & 英会話サークル

“うえるかむ”の各支部合同ミーティングが9月27日、神奈川学習センターで行われました。この「たより」のおかげで、神奈川のメンバーも20名を越え、サークルとしての楽しさも加わり、皆熱心にミーティングの準備をしました。英語での自己紹介や英会話の学習、シナリオの勉強の後は、ランドマークへ案内し、横浜の魅力を味わっていただきました。2月には、オーストラリアでのホームステイも企画しています。英会話の Nancy クラスでは、青い目と目が合っただけで頭の中が真っ白になってしまう人も多いようです。サークル参加希望の方は、下記へお問い合わせください。

連絡先 坂本 0467-31-8036 (19時以降)  
星 045-844-9647

### 人間学研究会

行事予定 (98/10~99/1)

#### 【例会予定】

- 10/11(日) 卒業研究発表『鎌倉時代の駅制について』
  - 11/8(日) 会員からの話題提供『いじめ・不登校について』
  - 12/5(土) 杉森先生の講演と忘年会
  - 1/10(日) テーマ未定
  - 【歩きましょう予定】
  - 10/16(金)~18(日): 中仙道を歩く  
加納~美江寺~赤坂~関ヶ原~醒ヶ井~彦根
  - 11/1(日)~3(火): 東松山スリーデーマーチ
  - 11/14(土)~15(日): 東海道自然歩道を歩く(身延線井出~興津川西里)
  - 11/27(金)~29(日): 中仙道を歩く(高宮~愛知川~守山~草津~大津~京都)
  - 12/23(水、祝日): 汽笛一声(新橋~桜木町)
- 連絡先 大出 鍋蔵 (0468-41-7937)

### 神奈川放友会

神奈川放友会は会員相互の親睦を図り、学習を援助する為に下記の活動を行っています。

- ・学習に関する情報交換
- ・会員相互の研究発表
- ・研修旅行(大学本部セミナーハウスで図書館利用の習得等)
- ・社会探訪(博物館、動植物園、美術館及び名所史跡等の見学)
- ・機関誌発行(不定期)

フェスタ・ヨコハマも終わり2学期に備えて充電中と思います。

また、10月新入学の皆様入学おめでとう御座います。

放友会でも着々と会員相互の情報交換を進めていますので、この機会に入会しませんか、連絡をお待ちしています。

- ・行事予定(10月~12月)
  - 10月25日(日) 社会探訪(横浜歴史博物館を予定)
  - 11月15日(土) 例会・研究発表(大岡地区センター)
  - 12月12日(土) 例会・忘年会(玄やまたは三河屋)
- 連絡先  
吉田 昭二 (Tel/Fax 045-752-2783)

### 放送大学同窓会

放送大学同窓会は 会員相互の親睦、放送大学及び放送大学学生との交流、社会への貢献を活動目的にしています。活動内容は会報「波濤」(3月、9月発行)で案内・報告しています。放送大学は学生・OBを問わず、いろいろな方面で活躍されている方が沢山いらっしゃいます。そのいろいろなジャンルの人達との出会いを大切に、活動の環を広げて行きたいと思えます。現在計画中の行事をご紹介します。

- (1)鎌倉散策(第4回): 10月4日(日) 大町・名越コース
  - (2)江戸博物館見学会+ちゃんこ鍋食べよう会: 1月31日(日)
  - (3)フォスタープラン講演会: 3月頃(詳細は「波濤」または他の手段で後報)
- 行事への参加を心よりお待ちしております。同窓会へのご意見もお寄せください。
- 連絡先 会長 藤井輝 (0467-86-3187)  
副会長(企画担当) 森西節子 (045-362-5121)

### 平成11年度第一学期 放送大学学生募集

資料配布: 平成10年11月15日  
出願受付: 平成10年12月15日  
~平成11年2月15日  
授業開始: 平成11年4月1日

・入学を希望する方・興味のある方には、入学手続きや授業内容を記しました募集要項と授業科目案内を無料でお送りします。はがき又は電話で、神奈川学習センターへ請求してください。

### 「幕末・明治写真展」開催

12月19日(土)から23日(水)まで、みなとみらい21にありますクイーンモールギャラリーにて、幕末・明治期の写真展を開催いたします。

放送大学附属図書館が所蔵しているF・ベアトなどの写真家の古写真が展示されます。このなかには、明治期の横浜駅、元町、伊勢佐木町、関内居留地などの貴重な写真が含まれています。(入場無料)

### 神奈川学習センターだより編集部

発行: 浜口允子  
編集: 五十嵐、遠藤、星、加藤、松本、皆川、吉田、杉浦、坂井  
Internetのホームページでは、神奈川学習センターだよりのバックナンバーも見る事ができます。

<http://www.dango.ne.jp/ua-kanag/>  
Eメールの宛て先は、

social@u-air.ac.jp  
神奈川学習センターだよりは、所属学生間のコミュニケーションを図るために発行されています。今回は、芸術の秋、旅の秋にちなんだ特集を組みました。また、中山氏のイラスト寄稿が契機となりまして、学習センター周辺地域を紹介する記事も作成しました。編集部の山本さんが海外協力でインドネシアへいらっしゃることになりました。これまでの編集へのご貢献に感謝いたします。